

平成21年度スタート

今年度、敷島北小の校長として赴任しました相川です。前任の千野校長先生の素晴らしい学校経営を見習いながら、子どもたちの健やかな成長に少しでもお役にたつことが出来れば、と考えています。

「学校だより」はこれまで千野校長が発行していたのと同じA4サイズで、表は主に学校行事から子どもたちの様子などをお伝えし、裏面では、子育てにおける示唆に富む話題、逸話など紹介していきたい、と考えています。

(1) 新任式、始業式、入学式

4月6日(月)は新任式、始業式、入学式という3つ行事が行われました。新任式では、児童会長(長田真実さん)からお迎えのことばがあり、その後、新任の先生から挨拶がありました。

○新任職員を紹介します

- ・校長 相川 芳廣 竜王南小学校より配置換え
- ・教頭 古屋 宗久 甲州市立東雲小学校より転入
- ・教諭 石原 祐子 甲府市立大國小学校より転入
- ・教諭 松橋 勝 昭和町立押原小学校より転入
- ・事務職員 小澤 美奈 竜王西小学校より配置換え
- ・庁務員 保坂 恍 シルバー人材センターより(隔週で勤務)
- ・庁務員 内藤 五郎 シルバー人材センターより(隔週で勤務)

始業式の後、行われた入学式には在校生を代表して6年生が入学式に参列しました。今年の1年生は35名と少なくそのため残念ながら1クラスになってしまいました。(将来、転入生などあり41名以上に増えると2クラスになるのですが)入学式では、担任の先生の呼名(こめい)にどの子も元気一杯応えていました。

6年生は入学式に参加しただけでなく、入学式準備のため春休みの4月3日(金)に登校して、体育館の清掃、イスならべ、1年生教室の清掃、飾り付けなどの仕事をしました。また、入学式の中での「お迎えのことば」では、1年生に「学校生活は楽しいよ」「給食は美味しいよ」「困ったことがあったら私たちになんでも聞いてね」と呼びかけました。このような取り組みを通し、6年生に最高学年としての自覚が育っていくのだと思います。

(2) 敷島中入学式で見た北小卒業生の活躍

敷島中学校の入学式が7日(火)に行われました。私は来賓として参列しました。その折り、近くに座った方が「校長先生、あの子は北小の卒業生ですよ。」と小さな声で教えてくれました。せっかくの機会ですから敷中入学式で見た北小卒業生の活躍ぶりを紹介します。

○歓迎のことば

- ・生徒会長の長田留衣君(平成18年度北小卒業生)が堂々とした態度で全校生徒を代表して歓迎のことばを述べました。

○新入生誓いのことば

- ・新入生を代表して北小卒業生、小澤大貴君が中学校生活での決意、誓いを若者らしく澁刺と述べました。

北小の校長として(今年度赴任した私は彼等とは面識はない訳ですが)本校の卒業生の活躍ぶりを見て、なにか嬉しく誇らしい気持になりました。

メアリーという赤ちゃんの話

これは以前、研修会で聞いた話です。アメリカに若い夫婦がいました。2人とも将来を嘱望(しょくぼう)された優秀な学者でした。この夫婦の間に女の赤ちゃんが生まれました。名前をメアリーといいます。この夫婦は考えました。夫婦共に学者として忙しいのでなるべく手のかからない子に育てよう。そこで、次のようにしました。

- ・赤ちゃんにあわせるのではなく、時間を決めて、おしめをかえよう。
- ・赤ちゃんにあわせるのではなく、時間を決めて、ミルクを与えよう。
- ・自立心を育てる為、また抱き癖がつくのを防ぐ為、なるべく抱かないようにしよう。
- ・ミルクを飲ませたりする時、あやしたり、話しかけたりしないようにしよう。

確かに合理的な子育てのように思えます。赤ちゃんの存在に振り回されることなく2人の学者としての生活、時間をそのまま維持しながら子育てをしていこう、と考えたのです。しかし、しばらくして不思議なことが起こりました。

- ・メアリーは笑わなくなりました。
- ・メアリーは泣かなくなりました。
- ・メアリーは体重が増えなくなりました。

裁判所は、2人からメアリーを取りあげました。乳児虐待と判断したのです。そして施設で育てることにしました。メアリーが保育されている場所の前には次のようなお願いが書かれていました。

- ・この赤ちゃんに話しかけ、微笑みかけて下さい。
- ・この赤ちゃんを抱きしめてください。

しばらくすると、メアリーは生き生きとした表情で笑ったり、機嫌が悪いときは泣いたりするようになりました。そして、体重もぐんぐん増えていきました。

このようなお話です。この話はアメリカで実際にあった話で、当時(H 6～7年頃)夏休みの教育相談の研修会に参加すると定番のように話題として提供されました。

当時と今では時代も変わりましたので、この話そのまま受け入れられないこともありますが、私たちは、この話から次のようなことを学びます。

- 人が育つには、人との関(かかわ)りあいが必要だ。
- ミルクを飲ませても赤ちゃんはそれだけでは育たない。愛情が入って初めてミルクは赤ちゃんを育てる力になる。
- 赤ちゃんを抱いたり、ほおずりしたりすることは、赤ちゃんの成長にとってミルクと同じように重要な役割を持つ。

アメリカの著名な教育学者、心理学者であるエリクソンは「発達段階説」で人の成長にはそれぞれの年齢でどのような対応(要素)が一番重要かを述べています。しかし、エリクソンの教えを借りるまでもなく、わが国にも昔から次のような子育ての素晴らしい教えがあります。今一度このことばをお互いかみしめてみたいものです。

- ①乳児期には肌を離さず
- ②幼児期には手を離さず
- ③少年期(少女期)学童期には目を離さず
- ④青年期には心を離さず